

忠義な犬

楠山正雄

青空文庫

むかし陸奥国むつのおくにに、一人ひとりのりようしがありました。毎日まいにちいぬ犬を連れて山の中はいに入はいつて、猪いのししや鹿しかを追い出おだしては、犬いぬにかませて捕とつて来きて、その皮かわをはいだり、肉にくを切きつて売うつたりして、朝あさばん晩ばんの暮くらしを立たてていました。

ある日ひりようしはいつもいぬのようにつに犬いぬを連つれて山やまに行いきましたが、
 どういうものか、その日ひは獲物えものが一向いっこうにありませない。そこで心こころ
 をいらだたせながら、ついうかうか、獲物えものを探さがしていくうちに、
 だんだん奥おくへ、奥おくへと入はいつていって、そのうちにとつぷり日ひが暮く

れてしまいました。

こう山やま奥深く入はいつては、もう今更引いまさらひつ返かえして、うちへ帰かえろ
うにも帰かえれなくなりました。仕方しかたがないので、今夜こんやは山の中に野
宿じゆくをすることにきめました。一本ほんの大きな木の、うつろになつ
た中に入はいつて、犬いぬどもを木のまわりに集あつめて、たくさんたき火びを
して、その晩ばんは眠ねむることにしました。するうちつい昼間ひるまの疲つかれが
出て、人も犬いぬも眠ねむるともなく、ぐっすり寝ね込んでしまいました。

二

ふと夜中よなかになつて、けたたましく犬いぬの鳴なき立たてる声こえがしました。

おどろ
驚いてりようしは目を覚ましました。ぼんやり消え残っているた
き火の明りに透してみますと、中でいちばん賢い、獲物を捕るこ
との上手な犬が、火のまわりをぐるぐる回りながら、気違いの
ようになつてほえ立てていました。りようしは何事が起こつた
のかと思つて、山刀を持って飛び出して、そこらを見回しま
した。けれども、何もそこにはほえ立てるような怪しいものの、
影も形も見えませんでした。ほかの犬たちも目を覚まさせられて、
いっしょにわんわんほえながら、これもやはり獲物をかき回つて
いましたが、何も見つからないので、すごすご、しつぽを振つて
もどつて来ました。

その中でも、さっきの犬は、あいかわらず気違ひのようほえ

回^{まわ}つて、主人^{しゅじん}のすそを引^ひつ張^ばるやら、背^{せなか}中に飛^とびつくやら、たいそうらんぼうになつて、しまいには今^{いま}にもかみつつかと思^{おも}うように、はげしく主人^{しゅじん}にほえかかりました。だんだん、その様子^{ようす}がおそろしくなるので、りようしも気味^{きみ}が悪^{わる}くなりました。刀^{かたな}を抜^ぬいておどしますと、犬^{いぬ}はなおおはげしく狂^{くる}い回^{まわ}つて、りようしの振^ふり上^あげる刀^{かたな}の下^{した}をくぐつて、いきなりその胸^{むね}に飛^とびつきました。りようしはびつくりして、思^{おも}わず犬^{いぬ}をつき放^{はな}して、振^ふり上^あげていた刀^{かたな}で、犬^{いぬ}の首^{くび}を切^きり落^おとしてしまいました。山^{やま}の中^{なか}があんまり寂^{さび}しいので、気^きが変^{へん}になつて、犬^{いぬ}が狂^{くる}い出^だしたのだと、りようしは思^{おも}つたのでしよう。

ところが驚^{おどろ}いたことには、切^きられた犬^{いぬ}の首^{くび}は、いきなり飛^とび上^あ

がって、りようしの眠ねむつていた頭あたまの上の木えだの枝にかみつきました。
 すると暗くらやみの中から、うう、うう、とうなるようなものすごい
 声こえが聞きこえました。やがてぱつきりと、まるで大たい木ぼくでも倒たおれた
 ような音おとがして、何か上なから大きなものが落おちてきました。りよ
 うしは驚おどろいて、火ひをともしてよく見みますと、四五間けんもありそうな
 長ながさのおそろしい大おろち蛇くが、とぐろを巻まいたまま落おちてきたのでし
 た。そののどに犬いぬの首くびがしつかりとかみついでいました。木の上
 に住すんでいた大おろち蛇くが、夜中よなかに、りようしをのもうと思おもつて出て来き
 たのを、賢かしこい犬いぬが見みつけて、主しゅじん人じんを起おこして助たすけようとしたの
 です。それが主しゅじん人じんに分わからなくって、かわいそうに殺ころされてし
 まいました。主しゅじん人じんのためを思おもう一いち念ねんが首くびに残のこって、飛とんで

いって、大蛇おろちをかみ殺ころしてしまったのです。

りようしはつくづくかわいそうなことをしたと思おもつて、涙なみだをこぼしながら、死しんだ犬いぬのために、りっぱなお墓はかをこしらえてやりました。忠義ちゆうぎな犬いぬのお墓はかだといつて、みんながおまいりをして、花はなやお線せん香こうを上げました。

青空文庫情報

底本：「日本の諸国物語」講談社学術文庫、講談社

1983（昭和58）年4月10日第1刷発行

入力：鈴木厚司

校正：大久保ゆう

2003年9月29日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

忠義な犬

楠山正雄

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>